

はばたくなら ①②

「いきものとおぼくたち・わたしたち」
保育活動で“身近な いきものとの関わり”
により、探究的な活動やいきものを飼うこと
により『命の大切さ』を体感的に学んだ。

取組について

当園では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を、「園の保育・教育課程」と関連付けて実践を行っています。「園の保育・教育課程」は、保育・教育事業の理念（法人）・コンセプト（園単位）・卒園児のあり姿（園単位）の3段階で考え方を整理し、“幼保連携型認定こども園教育・保育要領”をふまえ、表のとおり課程を編成しています。

- 1 法人保育理念・・・地域と歩む 世代を越えた子育て ー知恵・文化の伝承ー
- 2 保育園コンセプト(保育目標)・・・「喜怒哀楽を素直に表現できる」
「あたりまえの事をあたりまえにできる」「あそび・体験からの学び」
- 3 保育園 卒園児のあり姿
 - ・ 基本的生活習慣が身についている。
 - ・ 自分のことが自分でできる。
 - ・ 自分が愛されていることを実感できている。
 - ・ 健康な心と体のたくましい(優しい心、折れない心、生きる力)。
 - ・ 人の気持ちや痛みが感じられる子ども(自分の立場に置き換えて考える力を育む)
 - ・ 命の大切さや生きることの楽しさを感じている。

また、年長担任は小学校での研修体験を通じ、活動の構成単位を単元ととらえ実践しています。今回は、年長の4～10月までの取組を3つの単元で構成された事例を紹介します。

取組を通して

子ども達にとって

- 口頭では友達や生き物に優しくと日々伝えてはいたものの、実際に体験することで、経験を通して言葉の意味を理解することができた。自分以外の人や生き物に、思いやりや優しさの気持ちをもつようになった。
- ちょうちょやカエルになった時の喜びや感動、死んでしまった時の悲しみや寂しさなど、クラスみんなで同じ気持ちを共有することで、絆が深まった。感性が豊かになった。
- 身近な自然に興味や親しみをもつ子どもが増えた。自分で分からないことは、周りの人に聞いたり調べたりする習慣もつき、探究心が育まれた。

保育者として

- 行事や製作等に追われていると、遊びの中の子どもたちの“眩き”や“発見”を聞き逃してしまう。計画的に保育を進め、ゆとりをもった毎日を心がけることで、“子どもたち一人一人の言葉に耳を傾ける”ことができるようになった。
- 子どもたちが興味をもったことを更に深められるよう、その都度環境を整えることで、一人一人の学びや成長に繋げることができた。
- 毎日の自由選択活動の大切さを、改めて感じられるきっかけとなった。

実践事例 ① 4～5月いきもの図鑑ができたよ！

園外散歩などで、いろいろな場所に出かける度に、知らない虫や草花を発見。子どもたちは名前などを知りたく、図鑑などで調べ始める。「〇〇公園」「川沿い」など行った場所で見つけた草花の写真を貼り、名前など書き『いきものマップ』が完成。友達と協力して1つのものを作り上げることを体験・楽しみ、さらに『手作りの図鑑』づくりが始まる。



「カメさん およいでる!!」
「トリさんもいるよ!! トリやなくて“かも”やでえ～」
「カモっておよぐの上手やな～」
「コイもおる! 黒色のコイ、金色のコイも見つけたで!!」

子ども達が見ていると、散歩中の方から「コイのエサどうぞ!」と食パンを1枚頂いた。クラスの子も達で分け合って、餌やりを試みた。《担任談》

子ども達の興味が途切れないように、見つけた草花の写真を撮り、園に帰り印刷された写真を手掛かりに、図鑑などで調べたり、家族に尋ねられるように言葉掛けた。調べのはじまり…。

調べ → **相談** → 学び



「この小さなお花かわいいな～
なんてゆう名前かな??」
「調べてみるから、ちょっと待ってや…のってないわ…!」
「先生!! 園に戻ったら、大きい図鑑で調べたいから写真とっついて～」
カツシャ!!

「葉っぱの裏にカタツムリくっついてる!!」
「雨が降らない時は、ここに隠れてるんや～!」
「こっちにもおる。お母さんかな～ちっさいのは赤ちゃんかな～?」



園に戻り、図鑑で調べると『カタツムリは夜行性で、直接お日様の光を浴びると体が乾いて死んでしまう。だから葉っぱの裏側で休んでいること』を、子ども達を知る、…《担任つばやき》。

「見て見て!! アリつかまえた!!」
「ほんまや! おおきなあ～」
「女王ありかな…」
「アリって噛むから
気をつけてな」



「いっぱい調べていたら名前忘れちゃうから、画用紙に書いておこう!!」
「手作り図鑑つくろうよ!!」
「いいよ! 完成したらみんなにも見せてあげよう!!」

字が得意な子供は文字を書き。苦手な子は貼り付けをするなど、自ら役割分担をする姿が見受けられた。

本で調べても分からない植物は、他のクラスの先生や、お家の人などいろいろな人に教えてもらいながら、日数をかけて完成させる。

自然に興味をもち、遊びに取り入れること、解らないことは自分で調べてみる、友達と協力して1つのものを作り上げることを楽しみながら、体験することができた。

《担任のつばやき》

完成した手作り図鑑を、他のクラス・学年に見せる機会を作ることによって見せてあげたりし異年齢交流にもつながり、クラスの子どもたちは、達成感・満足を味わった……自己肯定感につながる。《担任の感想》

実践事例 ② 5～6月 いきものを飼ってみよう I

たくさんのお虫や草花を写真に撮り『手作りの図鑑』づくりが進む中で、子どもたちの「もっと知りたい」「知ったことを伝えたい」からの想いで、次の2つの活動となった。

青虫➡蝶々になるまで育て、園庭に逃がす。

担任が見つめてきた青虫に子どもたちが興味をもち、飼い始める。餌であるキャベツに偶然にモンシロチョウの小さな卵がついており、卵にあることを子どもたちも気づく。飼育途中で死んでしまう青虫もいたため、成虫である“ちょうちょう”（プリンちゃんと命名）になったときは、子ども達は大喜びであった。



「手に乗せた！小さくってかわいい～!!によきによき動く!!」「うわ～ウンチした!!」



「サナギってなんで壁にくっついてるんやろ??…糸みたいのでくっついてるっ～」



「ちょうちょでできたあ～羽シワシワなんやあ～」
「プリンちゃんお誕生日おめでとう!」



「いっぱいお花の“みつ”すって大きくなってね!」「また会いに来てね!」

アリ➡巣の様子を観察。アリの巣を共同制作として発展。

(知ったことを伝える)

「アリがいっぱいおる!!」「この穴から、今アリ出てきた(*_*;…ほんで また入っていった」「ここがアリのお家なんかなあ～」
「掘ってみよ!…うわあ～めっちゃおるやん」

「虫メガネで見たらめっちゃよくみえる!何か運んでる…ご飯かなあ…?」

「土の中にもぐっていったぞお～」
「どんどん道ができていく」
「ここは何のお部屋やろ～??」
「アリさん穴掘りの名人やな～」



「ここでみち曲がっていたよな」「ここ ご飯の部屋にしてもいい?」「いいよ!」



見たこと・出来事を再現しようとする子どもと、想像したことを作ろうとした子どもたちがいた。話し合いの時間を設け、それぞれのイメージを上手に共有できるようになり、一つの作品が完成した➡運動会のマスゲーム・作品展の共同制作・発表会につながる!! 《担任つぶやき》



実践事例 ③ 6～10月いきものを育ててみよう！

4月からの活動の中で、絵本や図鑑を見る機会が増える。『わからないことは、自分で調べてみよう!!』オタマジャクシの卵から“赤ちゃんが”生まれることを知り、見てみたいと子どもたちが思い、飼育開始する。⇒(オタマジャクシ→かえる 育てるの体験より命の大切さを知る。)

疑問ポイント① オタマジャクシって何食べんのやろ？ 調べ

Ans ▣ 「メダカのエサ食べるんやって！先生買ってきて！」

Ans ▣ 「ぼくの家、メダカ飼ってるからもってくるわ～」《ありがとう！》

みんなで オタマジャクシに「早くカエルになるように いっぱいご飯をあげよう!!」と毎日毎日世話や観察をしていたが、
オタマジャクシからなかなか足がはえてこない・・・???



疑問ポイント② 大きくなったけど、足はえへん～なんでやろ！？ 調べ

Ans ▣ “飼育ケースの中に、陸のような大きな石もなく餌が十分あればカエルにならず、オタマジャクシのままている”ことを知る。
「陸ってなあに？」...「歩くとこやで～」

Ans ▣ 「じゃあ、大きい石を入れてみよう」
陸を作ったことにより、数日すると 足がはえてくる
「後ろ足がはえてきた!!」「もうすぐ カエルになるでえ～」

疑問ポイント③ カエルになったら何食べんのやろ！？ 調べ

Ans ▣ 「生きたハエとかコオロギをたべんねんてえ～」

『そんなん 毎日つかまえられへんな～』

「どうする...! どうする...! ...????」

「そんなん しんじょうよお～」

数週間が過ぎ、カエルになり【かえる太郎】と命名

その後をみんなと相談する...「カエルになったら逃がしてあげよう！」



7月の頃 かえる太郎を放す日がやってきた...

「かえる太郎 まだあかちゃんやけど 大丈夫かな??」

「ハビとかに食べられへんかな...「心配やな...」「さみしいな...」

かえる太郎は、飼育ケースから自然に放たれたが...落ち葉の中で...「全然とんでいかへんやん...!」「ぼくらもなんか 寂しいな」カエルさんを逃がしてあげるため、みんなで外に出たが、『太郎と お別れしたくない!!』と一人の男の子が泣き出したため、クラスのみんなどもう一度 話し合い、再度クラスで飼うこととした。

疑問ポイント③ 太郎のえさ どないしたらエエねん??? 相談

餌を自分たちで課題を解決することができなかつたため、おうちに帰り家族に相談。

Ans ▣ なんと、保護者がミルワームならばカエルも食べることを確認。ミルワームでの飼育を子どもに投げかける。その後、毎日 箸でミルワームを摘み、太郎の口元に持っていき餌をやり、かえる太郎を飼い続ける。一緒に生活する事数か月……

10月のある日…

園児が登園するとカエル太郎が死んでしまっていた…。

「土の中に入れたらカエルさんは どうなるの?」「生まれ変わって またカエルになる?」「お空からみんなのことは見ていてくれる?」などなど…思い思いに話す子どもたち。埋葬したお墓の前で『ありがとう』『また会おうね…』



子どもたちの“かえる太郎”への優しい思いと次へ進んでいこうとする姿が愛おしく感じられるとともに、学び方を知り・心の内面の大きな成長がみられた。

更には、命の大切さを感じるとともに・体験を通じて学び、更にクラスで『命の大切さ』についてみんなで、話し合う。『カエルや虫、人間にも動物にも 草花にも命があること』知るきっかけとなった。《担任の感想》

日々の活動 アラカルト！

体力向上の取組 縄跳び(年長 4～10月)



年少さんと 電車
ごっこしよう～！



タイミング
つかめた～！
できた!!



縄跳びでけへんし！
つまらんな～



みんなで 大縄とび…
タイミング難しく、
ロープグリ～！



運動会
リズム表現
に…！

新型コロナ 休園続きだったが、友だちどうして教えあっこしたよ！



素敵でした！ みんなよく頑張った!!

食育→学び (年長6～1月) 苗→サツマイモ→共同製作&スイートポテト食べる



【参考】

表 保育・教育課程表(4～5歳抜粋)

3つの視点	保育の視点	4～5歳(抜粋)	10の姿
自尊感情	『愛情と温もり』 人とかかわりの中で温もりを感じ、自分が愛されていることを実感させる。 (家庭的な雰囲気情緒の安定、信頼関係の構築)	保育者や友だちとふれあいながら、いろいろな活動に興味をもち、意欲的に取り組む。	協同性 道徳性・規範意識芽生え
	『心と体』 健康でたくましい心と体を育てる。 (優しい心、折れない心、生きる力)	食べ物と身体の関係に関心をもち、食事や健康の大切さを知る。一人ひとりがしっかり周囲から受け止められ、認められながら安定感、信頼感を育み、将来につながる心の基盤を培う。	健康な心と体
学習意欲	『自分でできる』 基本的な生活習慣を丁寧にきちんと身につけさせ、自分のことが自分でできるよう確立を目指す。	日常生活に必要な習慣や態度を身につける。社会性につながる望ましい習慣や態度を身につける。	自立心 言葉による伝え合い 社会生活との関わり
	『しっかり考える』 様々な事物に関心をもち、気づいたり、考えたり、試したりしながら自発性を育む。	身近な社会や自然事象に興味や関心をもち、遊びや生活に取り入れて楽しむ、創意工夫する楽しさや喜びを味わう。さまざまな経験や、生活や遊びを通じて必要な言葉を身につけ、自分の気持ちを伝え合う喜びや楽しさを味わう。さまざまな遊びを通して、自分なりに表現し、数量や図形を知る。友だちと一緒に園生活を十分に楽しみ、主体的に行動して充実感を味わう。	思考力の芽生え 数量や図形文字などへの関心・感覚
規範意識	『思いやり』 『命の大切さ』 自分の気持ちを伝え、人の気持ちや痛みを感じ、相手の立場にたって考える力を育む。人とかかわることの楽しさを感じ、命の大切さを知る。	友だちとかかわりを通して、みんなで協力したり、役割を分担しながら目的を成し遂げる喜びを味わう。生活の中で与えられた役割および責任をもって果たすことで達成感を味わえるよう、言葉がけを工夫する。誰かのために働くことは、自分の喜びにもつながることを一緒に体験し、その喜びを共感していく。	豊かな感性と表現 自然との関わり・生命尊重